招待講演（一般公開）	11 **月** 29 **日**（**日**）10:30〜11:30
	講義棟 4 **階** 4602 **講義室**

身体接触と癒し

講演者　　飯　田　淳　子　（川崎医療福祉大学医療福祉学部准教授）

司　会　　寺　崎　正　治（川崎医療福祉大学）

概要

痛みや病の治療において，治療者が患者の身体に触れることは，古来より様々な社会において見られる。本講演では，身体接触と癒しについて，文化人類学的な観点から考察する。具体的な事例として，講演者が調査・研究を行ってきたタイ・マッサージおよび北タイの民間医療を主にとりあげる。

「感覚の人類学(anthropology of the senses)**」は，近代西洋社会が視覚中心の社会であることを明らかにしてきた。近年の代替療法の隆盛・再評価は，西洋化・産業化された社会において個人が孤立化する中，身体接触が不足していることが一因となっているとする指摘もある。タイ・マッサージのグローバル化・商品化の背景にもこのようなことがある。ただし，欧米人が癒されると感じるマッサージはタイ人のそれとは異なっており，タイ・マッサージは西洋的な触覚に合わせて変容している。**

北タイにおいては，病や痛みなどを引き起こす作用体として精霊（*phii***）や毒（***pit***）がよく言及される。何らかの形でこれらの作用体と接触すると，病を患うとされているのである。精霊や毒による病と疑われる場合，脈診や，卵・薬草・ゴマ油等を用いて患部をこする等の方法で診断・治療を行う。これらの行為を通じて，精霊や毒といった普段人々が知覚できないもの（の証拠）が視覚化され，触知化される。こうした身体接触を中心とする知覚的・感覚的経験は，苦悩や病からの治癒の過程において重要な役割を果たしている。**

西洋の視覚主義は近代科学にも影響を与え，顕微鏡や X **線撮影などによってさまざまなことが明らかにされてきた。「先進国」の医療現場では，医師が自らの感覚を用いて行う身体診察よりも，機器により容易に「客観的」な情報を得られるとされる検査に依存する傾向が強まりつつある。一方，身体診察を医師－患者間のコミュニケーション手段，あるいは治療そのものにつながるとして重視する医師もいる。本講演では最後に，講演者が最近調査・研究を始めた日本の医療機関における身体診察に触れる。**

文献

Csordas, T. J. 1994. *The Sacred Self: A Cultural Phenomenology of Charismatic Healing*. Berkley: University of California Press.

Howes, D. (ed.) 1991. *The Varieties of Sensory Experience: A Sourcebook in the Anthropology of the Senses*. Toronto: University of Toronto Press.

飯田淳子 2006 **『タイ・マッサージの民族誌－「タイ式医療」生成過程における身体と実践』 明石書店**

飯田淳子 2008 **「接触による治療」『月刊みんぱく』**11 **月号**: 22-23.

Iida, J. Forthcoming. The Sensory Experience of Thai Massage: Commercialization, Globalization and Tactility, in *Everyday Life in Asia: Social Perspectives on the Senses*, edited by K. Low and D. Kalekin-Fishman, Aldershot, Hampshire: Ashgate.

Paterson, M. 2007. *The Senses of Touch: Haptics, Affects and Technologies*. Oxford and New York: Berg.

講演者紹介(主な略歴など)

1997 **年 筑波大学大学院地域研究研究科修士課程 修了**

2002 **年 川崎医療福祉大学医療福祉学部講師**

2003 **年 総合研究大学院大学文化科学研究科博士課程 修了 （文学博士）**

2006 **年 オックスフォード大学社会文化人類学研究所・グリーンカレッジ客員研究員**

タイにおける伝統医療・民間医療，日本の医療機関における身体診察について，文化人類学的な観点から研究している。